



合宿中、特に選手から好評だったのが、静波スウィングビーチの時見直幸料理長（写真右下）らが腕を振った毎日の食事。地元の食材をふんだんに使用し、選手からの要望にきめ細やかに対応した日々の食事が、選手のコンディションを万全にしました。



USAサーフィン提供



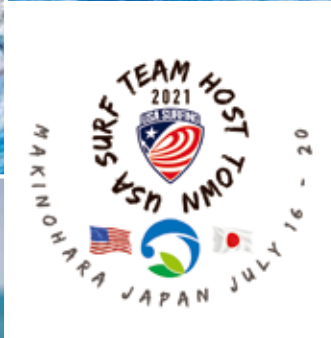
USAサーフィン公式Instagramより



Carissa Moore
カリッサ・ムーア



Kolohe Andino
コロヘ・アンディーノ



USAサーフィン 事前合宿の軌跡

USAサーフィンチームが、7月16日～20日の4泊5日の日程で、2020東京五輪サーフィン競技の事前合宿を市内で行いました。16日正午、羽田空港から借り上げバスで宿泊先の「静波スウィングビーチ」に到着した選手やスタッフ11人に、牧之原市花の会から花飾りをプレゼント（1）。選手らはホテル従業員らの歓迎を受けながら（2）、ソーシャルディスタンスを保ち、笑顔でホテルに入りました。

17日～19日には、午前7時ごろから静波海岸で、午後3時ごろから静波サーフスタジアムで、それぞれ2時間程度練習を行いました。合宿期間中は、地元サーファアの皆さんなどに、早朝から練習会場の整備や周辺警備などに協力していただきました（3）。

17日夜には、市内の小学生とのWeb交流会に参加。けん玉などの日本の文化に触れたり、モニター越しに子どもからの質問に答えたりした選手らは、穏やかな時間を過ごしました（4）。19日夜には、県工業連合会の皆さんによる激励会を開催。選手らは、次々に繰り出されるはしご乗りやまとい振りなどの演技を、ホテル2階の部屋から楽しみました（5）。

最終日の20日朝には、チームが市役所棟原庁舎を訪問。記念品の交換を行ったほか、杉本市長からチームにエールが送られました（6）。また、カリッサ・ムーア選手（6）。

手がチームを代表し「私たちは牧之原が大好きです。ビーチは美しく、皆さんはとても優しくかったです。牧之原に戻る日を楽しみにしています」と、日本語で感謝を伝えてくれました（7）。

コロナ感染防止のため、厳しい制約の中での実施となった事前合宿。それでも市では、多くの皆さんの協力を得ながら、できる限りのおもてなしを行いました。無事に合宿日程を終えたチームは、市職員らに見送られながら、競技会場がある千葉県一宮町に向かいました（8）。

東京五輪サーフィン競技は7月25日にスタート。27日に行われた決勝戦で、カリッサ・ムーア選手が南アフリカの選手を破り、見事金メダルを獲得しました（9）。

合宿中から好調を維持し、本番でも前評判通りの強さを見せ順当に勝ち上がったカリッサ選手。台風の影響で難しいコンディションの中、スケールの大きな力強いライディングで得点を伸ばし、「魅せて勝つ」を体現してくれました。

市役所棟原庁舎では杉本市長をはじめ、事前合宿に協力していた関係者らが集まり、モニターで決勝戦を応援。勝利の瞬間会場には笑顔と拍手があふれました（10）。